

再評価調書

事業名	都市計画道路 松之浜駅前通り線			
所在地	泉大津市松之浜町1丁目、松之浜町2丁目、二田町1丁目、二田町2丁目 曾根町3丁目地内			
再評価理由	事業採択後10年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	一般府道堺阪南線から都市計画道路南海中央線を結ぶ地域内幹線道路であり、松之浜駅周辺部における交通渋滞と交通安全対策を目的とし、現道拡幅整備を行うものである。		
	内容	延長 0.9 km (府道堺阪南線～都市計画道路南海中央線) 幅員 16.0 m 道路区分 第4種第2級 2車線道路		
	事業費	全体事業費：約63億円 うち投資済事業費：約30億円 (内訳) 用地補償費 約55億円 (内訳) 用地補償費約28億円 (用地補償単価 約36万円/m ²) 工事費約 8億円 工事費 約2億円 (工事単価 約80万円/m)		
	維持管理費	約5.3百万円/年 (約5.7百万円/km・年)		
	上位計画等の位置付け	・大阪府交通道路マスタープラン ・大阪府都市基盤整備中期計画(案)		
	関連事業	南海本線連続立体交差事業(泉大津)		
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	現時点での状況	分析
		事業採択年度 H7年度 事業着手年度 H7年度 完成予定年度 H13年度	事業採択年度 H7年度 事業着手年度 H7年度 完成予定年度 H21年度	
	進捗状況		用地 51% 工事 25%	堺阪南線～(都)助松式内線の区間を重点的に事業進捗を図っている。
	途中段階の整備効果発現状況	一定区間の用地が確保できた段階において、順次、拡幅整備を行うことにより、歩行者の交通安全の確保並びに、自動車交通流の円滑化が図れる。		
事業進捗に関する課題				

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	現時点での状況	分析
		現道は幅員が約5m程度と狭隘な上に歩道がない状況であり、松之浜駅への利用者と通過車両が混合し、危険な状態であるため、交通安全の観点から現道拡幅整備に着手した。	(現道) 泉大津美原線 混雑度 1.18 (平成6年) 交通量 3,180台 (平成6年) 2,254台 (平成15年)	交通量は減少しているものの、現道幅員が狭く、歩道もないため、交通安全上、非常に危険な状態である。
		(周辺道路) 富田林泉大津線 混雑度 1.37 (平成6年) 1.26 (平成9年) 1.52 (平成11年) 交通量 8,428台 (平成6年) 10,524台 (平成9年) 10,150台 (平成11年) 富田林泉大津線 ((都) 松之浜曾根線) 混雑度 0.34 (平成6年) 0.69 (平成9年) 0.79 (平成11年) 交通量 3,180台 (平成6年) 17,369台 (平成9年) 19,222台 (平成11年)	混雑度、交通量共に増加傾向にある。	
	地元等の協力体制	現道幅員が狭く、歩道もないため、交通安全上、非常に危険な状態であり、早期整備が望まれている。	交通量は減少しているものの、歩行者等の安全確保の観点から早期整備が望まれている。	平成21年度の完成に向け、引続き地元の協力を得て、事業推進に努める。

		計画時の想定	備考	現時点での状況（変更点）	分析
事業効果の定量的分析	費用便益分析	※計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出することができなかったものの、本事業整備による事業効果が期待される。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な便益内容 走行時間の効果 （走行時間の短縮） 走行経費の効果 （時間短縮による走行経費の節減） 受益者 道路利用者 	<ul style="list-style-type: none"> $B/C = 4.31$ 便益総額 B = 約 269 億円 総費用 C = 約 62 億円 ※算出根拠 費用便益分析マニュアル（国土交通省平成 15 年 8 月） 	本事業整備による事業効果が期待できる。
	その他の指標 （代替指標）				
事業効果の定性的分析	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 歩車道分離による歩行者、自転車の安全確保 災害発生時の緊急輸送路、避難路の確保 道路拡幅による延焼遮断機能の向上 道路空間確保によるライフライン導入 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者 地域住民、道路利用者、 道路占有者、道路管理者 	変更点特になし。	
	活力	<ul style="list-style-type: none"> 地域間交流連携強化 物流の効率化の支援 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者 地域住民、道路利用者、 就労者 	変更点特になし	
	快適性	<ul style="list-style-type: none"> 幅員が確保された歩道による快適性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 受益者 地域住民、道路利用者 	変更点特になし	
	その他				
自然環境等への影響と対策		<ul style="list-style-type: none"> 道路の整備により旅行速度が向上し、CO2の排出量が削減される。 植樹帯の設置により、緑の回復に努める。 		変更点特になし	
その他特記すべき事項					